

辰巳会会員便り

土居 千恵

絶えての御無札を深くお詫び申し上げます。筆を取らせて頂きます。

待ちわびた花便りも漸しく満ち、野も山も美しい春爛漫の今日この頃でございます。大連新京と外地生活十年余の私に取りましては、今更の様に、日本の春夏秋冬の美景に心躍り、日本に生れ育ったことを心の底より有難くうれしく満身に存じ居ります。

度々と「たつみ」を御恵送下さいまして誠に有難う存じます。厚く御礼申し上げます。

前の頃は、お懐かしいお顔やお名前を拝し、本當にうれしく存じ居りましたが、主人故 土居増喜が亡くなりましてから、もう三十五年余を数えます今日、お懐かしいお顔やお名前も流石に僅少となり、本當に淋しくなりました。でも此の様にまで年老いた私にまで、

お心のこもられました「たつみ」を御恵送下さいまして本當にうれしく勿体なく存じ居ります。心より厚く御礼申し上げます。

皆様方の御文面を拝し、お元気な皆様方の御様子を拝しますにつけ、主人故 土居増喜の他界の早さが惜しまれてなりません。何時も皆様方のお心厚い御芳情のうれしさをお話し致しながら「たつみ」をお供させて頂いております。きつと喜んで居る事と存じます。

早速と御札に参上致さねばなりませんの先に達ての地震以来(半壊)腰痛となり、その上最近背骨を悪く致しまして、申し訳ない事乍ら、御無札ばかり重ね、面目次第も御座いません。せめてもの御札の気持ちで切手代にでもと存じ僅かなものを御送りさせて頂きましたのでどうか御笑納遊ばして下さいますように御願ひ申し上げます。

皆様には何卒御身おといの上お励み遊ばして下さいますように、又、どうぞ今後共によろしく

三月九日

辰巳会本部御中

追而 金子直吉伝 柳田富士松

伝 皆様お持ちの事とは存じますが、当方に置くよりは少しでもお役に立つ事と存じ、お送り申し上げます。

西村 千鶴

前略 御許しくださいます

先日はたつみ六十一号をお届け頂きまして有難うございました。

主人 鏡次郎は平成七年十月に旅行先にて突然脳梗塞を起し、二年間の入院生活の後、昨年九月に九十二才で世を去りました。平素健康に恵まれて居りましたので東京支部会には殆ど欠かさず出席して居りました上、時折は本部の会にも参加させて頂いたりして楽しく過ごして居りました。

会員の皆様方には長い間色々とお世話様になりました事と厚く御礼申し上げます。

尚、末筆乍ら辰巳会の御発展と皆様様の御健康を心よりお祈り申し上げます。

一筆 御礼まで

早々

御願ひ申し上げまして筆を置かして頂きます。かしこ

辰巳会会長

鈴木 治雄様

御机上

石本 照子

扱啓 早や弥生三月ともなり身も心も嬉しい季節と相成りました。辰巳会皆様にはお健やかな事と存じ上げます。扱此の度はたつみ第六十一号を御送付頂き誠に有りがとう御座います。ゆっくりと楽しく拝見させて頂きました。私は満九十才を越えました。主人喜久次が若し生きて居りましたら此の四月満九十八才になります。

終りに誠に些少でございますがお送り致しましたのでお収めくださいませ。有りがとう御座います。かしこ

三月二日

辰巳会様

方も健康でお過ごし下さいますよう心からお祈り申し上げます。

八月二十七日

かしこ

たつみ会皆様

三田日出雄

拝啓 梅雨の候会員の皆様方には益々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

過日は「たつみ」六十一号をお送り頂き有り難うございました。

さて、私の母三田比奈子は、父兵次(播磨造船所)没後、私の家族と一緒に暮らしておりましたが、平成六年十月二十六日に九十三歳にて亡くなりました。本誌五十九号を受領致しました際に、貴会宛のご連絡を気付きながら雑事に紛れ、ご連絡が今日まで遅れて仕舞いました。失礼の段深くお詫び申し上げますと共に、両親が生前賜りました会員の皆様方のご厚情に心から御礼申し上げます。

青柳 節子

前略

「日銀総裁に速水優氏」のニュースが突然三月十六日午後九時ラジオに入って来ました。急いでいただいたばかりの「たつみ」を開きました。迎春の頃や東京支部の例会にもご出席の様子など新たに読みました。鈴木商店全盛時代のロンドンの高畑誠一氏を彷彿とするような登場の感をうけました。「phonix」と姉が言います。

(神話) 不死鳥

アラビアの砂漠に五、六百年の間、ただ一羽だけ棲み、太陽に点火された香木の枝を積んだ火葬の火を自分の羽で煽りながら焼け死に、その灰の中から再び新たな若さを取り戻してよみがえると伝えられる。

諸々の記事によりますと、大変熱心なクリスチャンであられ、誠実な方と伺います。大役とは存じますが、快刀乱麻のあざやかさで、病根をたつていただきたく願うと共に、切なる御自愛をお祈り申し

余談ながら、六十一号誌上で私も昔から存じ上げる立花實様の「船鉄交換と播磨造船所の史実」を色々の感懐と共に拝読しました。

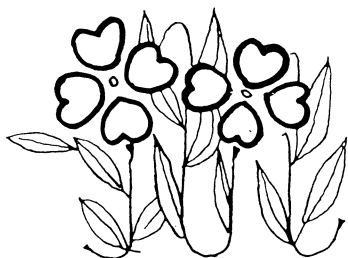
亡夫の事もさることながら、昭和二十七年から四十年間海運会社で禄を食んだ私にとりまして、その間「米」マークに係わる大勢の方々との「ご縁」を痛感し、感謝申し上げる次第です。

会員の皆様方の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

遅ればせながらお詫び方々お知らせまで。

平成十年六月三十日

辰巳会御中



辰巳会平成9年度決算書

自：平成9年4月1日
至：平成10年3月31日

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越	円	支出	円
現金	75,398	大会・例会費	774,789
預金	5,167,678	たつみ誌代	508,410
未収入金	1,000,000	支部経費	600,000
計	6,243,076	慶弔費	105,979
		墓地管理費	40,000
		通信費	116,860
		事務消耗品費	21,268
		旅費交通費	11,560
		雑費	243,974
		計	2,422,840
収入		次期繰越	
大口広告料	2,000,000	現金	141,820
小口広告料	324,000	預金	5,529,841
寄付金	5,000	未収入金	1,000,000
大会・例会会費	417,000	計	6,671,661
預金利息	4,425		
雑収入	101,000		
計	2,851,425		
合計	9,094,501	合計	9,094,501

戸谷太通三

拝啓 貴社益々御隆盛の趣慶賀申し上げます。
いつも辰巳会会報「たつみ」御恵送に預り有難く御礼申し上げます。
さて、去る五月十一日(月)、もと小樽・大成商事関係の四名が集まり、旧懐談に花を咲かせ、さしずめ「札幌辰巳会」といったところでした。
集まる者四名の当時の経歴と思い出次の如し
・東京より室谷 勇(大成商事)宝産業(株)築別乾溜工場・副工場長として勤務。所在・羽幌炭鉱(別)工場では石炭から重油とコーライトを精製。海軍へ納入していた。当時海軍の管理下であり。太陽本社の担当重役は金子三三郎氏。
室谷氏は金子さんのお宅に泊めて頂いたことありと。
・留萌より村田擴吉(大成商事)樺太ツンドラ工業(株)事務部長として勤務。所在は敷香Ⅱ現・サハリのポロナイスク(工場では、この地の無尽蔵のツンドラ(草炭、泥炭

ともいう)から断熱材、防音材を製造していた。

社長は竹田儀一氏、太陽本社の担当重役は笹起為三郎氏、常務取締役兼工場長 本間勇児氏。
村田氏の樺太赴任に際し、神戸で橋本隆正重役立会のもと金子直吉翁より直接激動を受けた由。
・札幌より伊藤守二(大成商事)・札幌より戸谷太通三(大成商事)―当時の太陽産業羽幌鉱業所へ出張―羽幌炭鉱鉄道Ⅱ社名変更・会計として勤務) ツンドラといえば、樺太創業前の昭和十五年十一月初旬、神戸本社から出張してこられた技士さん(姓名失念)を案内して、札幌から六十キロ離れた美唄の石狩川に近い泥炭地試験所(所長は藤森信四郎という専門家)へ行ったことを思い出しました。
右お知らせまで 敬具
平成十年五月十七日
辰巳会本部

物 故 者 名 簿

(「たつみ誌」61号以降)

辰巳会事務局

御 芳 名	死 亡 年 月 日	享 年	鈴木時代の職歴又は現職
細川 翰吉	平成9年3月13日	88歳	
曾根 好雄	平成10年3月	92歳	横浜支店 生糸部
加地 彦太郎	平成10年4月1日	93歳	小樽支店・桜麦酒(株)
突永 清人	平成10年4月	97歳	帝 人 (株)
上野 金治	平成10年5月7日	93歳	
原 彊	平成10年8月7日	87歳	帝 人 (株)
田中 卓治	平成10年9月	96歳	(株) 神戸製鋼所
宗 真足	平成10年12月1日	100歳	豊年製油(株)